



# 林業福島

No. **615**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会  
会長 齋藤卓夫



ふくしまから  
はじめよう。

Future From Fukushima.

**11**  
2015

監 修 ■ 福島県農林水産部  
表紙の写真 ■ 森林と馬の共存



# 林業・木材産業の再生に向けて

福島県木材協同組合連合会

会長 朝田 宗弘

東日本大震災から早四年七ヶ月が経過し、少しずつ震災前の生活に戻りつつありますが、放射能の影響により私の住まいのある浪江町を含め未だ帰還の目途が立っていない町村があるのも現状です。

さらにこの影響は県内の森林・林業に対し、依然として大きな影響を落としており、どの場所で林業活動を続けていくことができるのか、伐採した木材は利用できるか、安全性をどう担保していくのかなど、これからも業界として検討していかなければならない課題は山積みしております。今回県木連が素材生産業者を対象に実施したアンケート調査によると、相双地区はもとより県北地区の業者においても県中地区や宮城県に素材生産の場を求めざるを得ない状況になっており、いつまでこの状況が続けなければならないのか不安に思っているようです。

このような中で、福島県の林業・木材産業再生の切り札として県内にCLT製造施設建設の動きが新聞紙上を賑わしており、福島県では「ふくしま型CLTチャレンジ事業」を立ち上げ、県木連においてはこの事業を活用し産学官連携によるCLT推進検討委員会を設置したところです。その中では供給、需要の二つのワーキンググループを設け、CLT製造施設の整備や公共事業等へのCLTの需要拡大を推進するための課題や方策を検討することとしております。しかし、製造施設をどこにどの程度の規模で建設するのか、県産材ラミナの供給は可能なのか、継続した需要は見込めるのかなど様々な課題をどう取りまとめていくのか相当難しいと感じております。

最後に、震災直後は行政の支援による木造仮設住宅の建設、それに続く復興住宅需要により県内木材業界はなんとか生き延びてきましたが、これら需要が一段落するこれからは全国の木製品に伍してどの様に県産木材を販売していくか正念場を迎えることとなります。さらなる行政の支援をもちたいただきながら業界一丸となり、この難局を乗り越えていくことといたしましょう。

## 《も く じ》

とびら		林道植の畑線と塩の道……………	7
林業・木材産業の再生に向けて……………	1	「自然に親しむ」……………	8
トピックス		普及指導員通信……………	9
福島県優良建設工事表彰について……………	2	水源林整備事務所だより・公社だより…	10
平成27年度森林林業体験事業を開催しました……………	3	技を究め、技術を伝承する ～新たに「森の名手・名人」に認定される～……………	11
高校生を対象とした海岸防災林再生セミナーを開催……………	4	木材市況・ふくしま東西南北……………	12
林業研究センターだより……………	5～6	はなしのひろば……………	13

# 福島県優良建設工事表彰について

福島県農林技術課

平成27年度福島県優良建設工事は、平成26年度に完成した工事を対象とし、土木部関係で18部門、23件（24社）、農林水産部関係で8部門、8件（8社）の受賞が決まりました。ここでは、林業関係の受賞工事3件について紹介します。



## 治山部門

- 施工業者 〒969-6264 大沼郡会津美里町字高田甲2853  
株式会社横山組 代表取締役 横山 俊作
- 事業名 復旧治山事業 山寺前地区  
会津若松市門田町大字御山字山寺前地内
- 工事概要 流路工 L=101.4m
- 寸評 本工事は、床固工や護岸工などの比較的小規模なコンクリート構造物で構成された流路工の工事である。

曲線区間や構造物同士の間隔の調整など測点以外にも細かく管理対象点を設置し、適切な現場管理を行ったことにより、通りの良い線形となっている。

また、資材の運搬経路となった集落内の安全の確保や、果樹園の農作業への影響を最小限とするために、地元との連絡調整を行い、綿密な施工管理に基づいて計画的に施工した点も評価できる。

コンクリートの表面も丁寧に仕上げられており美観にも優れ、出来形・出来ばえ共に優秀である。



## 林道部門

- 施工業者 〒967-0304 南会津郡南会津町松戸原223  
株式会社館岩工務所 代表取締役 芳賀 博之
- 事業名 森林居住環境整備事業 矢竹阿多根線  
南会津郡南会津町熨斗戸字矢竹地内
- 工事概要 道路工（舗装工） L=893.8m
- 寸評 本工事は、曲線区間や勾配変化点の多い林道の舗装工であり、適切な現場管理と、高い技術力が求められる工事である。

曲線部の舗設において、締固め機械による合材の外側への押出しを考慮して中心部の敷均し量を調整し、舗装厚及び横断勾配の確保に努めるなど、現場経験に基づいた高い技術力が見られる。

また、ISO14001を取得し、環境負荷の軽減を継続的に実践するなど、環境改善に取り組む意識も高い。舗装の仕上げにおいてもきめ細やかな配慮がみられ、出来形・出来ばえ共に優秀である。



## 治山（災害復旧工事）部門

- 施工業者 〒976-0035 相馬市程田字形部田26  
草野建設株式会社 取締役社長 草野 清貴
- 事業名 林地荒廃防止施設災害復旧事業（23年災） 十二本松地区  
相馬市尾浜字十二本松地内
- 工事概要 護岸工 L=575.5m
- 寸評 本工事は、東日本大震災で被災した護岸工の復旧工事である。

隣接する海岸堤防、市道の復旧工事との工程の調整や、資機材の計画的な手配など、徹底した施工管理を行い、復旧工事が最も集中する時期に工期限内に完成させたことは高く評価できる。

また、鋼矢板の打込みは、H形鋼製のガイドを用いて慎重に行い、中心線のずれが小さく正確にできている。

頭部コンクリートの屈曲部の加工も丁寧に、松川浦との景観となじみ、極めて美しい美観となっており、出来形・出来ばえ共に優秀である。

# 平成27年度 森林林業体験事業を開催しました

（公社）福島県森林・林業・緑化協会

平成27年9月4日（金）、大沼郡昭和村の御前ヶ岳国有林を会場に平成27年度森林林業体験事業（現場実習型）を開催し、県立会津農林高校森林環境科2年生15名が参加しました。

この事業は、将来の地域林業の担い手である県内の林業系高校生を対象に林業作業への理解と就業の動機付けを目的に実施するもので、高校生を対象とした事業としては、8月17日（月）に二本松市ほかで開催したきのこ施設等体験事業（本誌10月号で紹介）に続くものです。

開会式では、主催者を代表して堀江隼人林業労働力確保支援センター事務局長、所轄署の会津森林管理署高橋昌明森林技術指導官のあいさつ、同署 小澤一輝さんから、当該国有林内で行われている森林環境保全整備事業の概要や間伐の必要性その作業手順について説明があり、参加者はやや緊張した面持ちながらも熱心に耳を傾けていました。

体験事業は「高性能林業機械等作業見学」と「間伐作業体験」の2部構成で企画、作業見学は、現場で取り入れられている高性能林業機械等を使用した「伐採」、「造材」、「集材」の実際について学習することとしました。

各機械作業は、会津若松地方森林組合の皆さんの実演により行われましたが、プロの巧みなチェーンソーワーク等によりカラマツが見事に伐倒されると参加者から喚声が上がりました。

また、プロセッサによる造材では、グラップルを操り、送材、枝払、測尺を行いながら内蔵のチェーンソーでカラマツ丸太を次々に玉切るオペレーターの技に見入っていました。

玉切り丸太を前に、参加者からの「2 m材の材積は？」、「4 m材の市場での取引価格は？」の問いかけに関係者は丁寧に答えていました。続いてフォワーダによる集材の見学を行い終了しました。

間伐作業体験では、参加者は3班に分かれ、ノコギリで実際に木を伐倒する体験を行いました。

急斜面での作業に苦戦しながらも、慣れないノコギリを懸命に動かし取り組んでいる姿が印象的でした。

終了後、参加者は「作業は力があるし大変だったけれど、木が切れたときは嬉しかった。またやってみたい。林業にも関心が持てた。」と話していました。



つるの役割を聞く



プロセッサの前で



なかなか切れない

# 高校生を対象とした 海岸防災林再生セミナーを開催

（公社）福島県森林・林業・緑化協会

九月十七日（木）、福島県立相馬農業高等学校において、海岸防災林再生セミナーを開催しました。これは、東日本大震災で発生した津波によつて流失した海岸防災林（以下、「海岸林」という。）の再生には長い年月がかかるため、同校で環境緑地を学んでいる生徒たちに、海岸林が持っている多様な機能とその重要性について専門家から講義をしていただき、高校生の海岸林再生に対する意識の醸成を図ると同時に、海岸林再生を継承する人材を育成することを目的として、海岸防災林再生等復興支援事業の一環として開催したものです。

セミナーは、同校の視聴覚室において環境緑地科一年生十九人と三年生二十九人の計四十八人の生徒を対象として開催しました。講師には、国立研究開発法人森林総合研究所東北支所地域研究監で農学博士の坂本知己氏をお迎えして、「海岸防災林再生

に私たちができること」という演題でご講演をいただきました。内容は、海岸林の定義から海岸林の役割（海岸林が有する多様な機能）、海岸林造成は既に藩政時代から行われていたという歴史、海岸林ができることと保健休養の場としての利活用等新たな価値が生まれるという話、津波による海岸林の被害状況、津波に対する海岸林の効果（波力減殺、漂流物阻止、よじ登り、縄り付き、ソフトランディング効果）、海岸林再生の課題（マツ材線虫病、過密化、前砂丘の崩壊など）、最後に海岸林再生に必要なことは健全な林帯を造ることであり、そのためには海岸林の再生は植えておしまいではなく、それを維持していくための息の長い取り組みが必要であることなど多岐にわたりました。生徒たちは講義の内容を吸収しようとして最後まで熱心に耳を傾けていました。午後からはあいにくの雨の中での

現地見学会となりましたが、これは一年生が参加しました。生徒たちは当協会が用意したバスで相馬市磯部の大洲国有林に移動しましたが、途中、車窓から海岸林復旧工事の現状を見学しました。目的地に到着した後は降雨のため、バス車内で関東森林管理局磐城森林管理署の中澤文夫署長から、同署が実施している海岸防災林復旧工事の概要と、関東森林管理局が平成二六年度に公募して、ボランティア団体が植栽したクロマツ植栽地についての概要説明を受けました。

その後、生徒たちはバスから降りて、中澤署長からボランティア団体によつて植栽されたクロマツや、公共事業によつて盛土された植栽基盤、植栽クロマツを強風から護る防風柵、同様に飛砂から守る静砂垣、さらに植栽したクロマツの現況などについて説明を受け、森林管理の専門家の話に興味津々でした。

今回のセミナーが、参加した高校生にとつて知識習得だけでなく良い経験となり、将来、海岸林再生を継承する人材になることを期待しています。



森林総合研究所 坂本知己博士の講演を熱心に聴講する生徒たち



降雨のため、バス車内で磐城森林管理署長から現場の復旧状況について説明を受ける



磐城森林管理署長から現場の復旧状況についての説明を受ける

# 原木における汚染軽減技術の開発

## —きのこの用原木の汚染軽減技術—

福島県林業研究センター  
主任研究員 伊藤 博 久

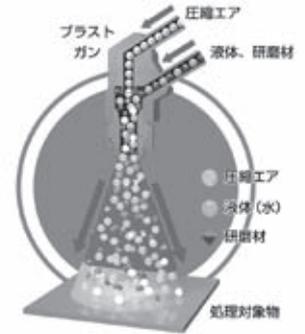
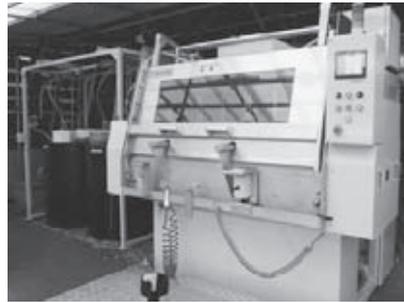


シイタケの発生状況

### 1 はじめに

平成23年東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質は、福島県内の森林にも広範囲に降下し、きのこの用原木の産地となっていた阿武隈山系の広葉樹林にも大きな被害を及ぼし、シイタケ原木の供給不足を引き起こしています。そこで、平成25年度にシイタケ原木除染システムの実用開発事業により、水と研磨剤を用い原木を除染する「ウェットブラスト処理」による除染装置を開発し（図-1）、コナラ原木及びこの装置で処理した原木から発生したシイタケの放射性セシウム軽減効果を検証しました。

図-1 ウェットブラスト処理装置



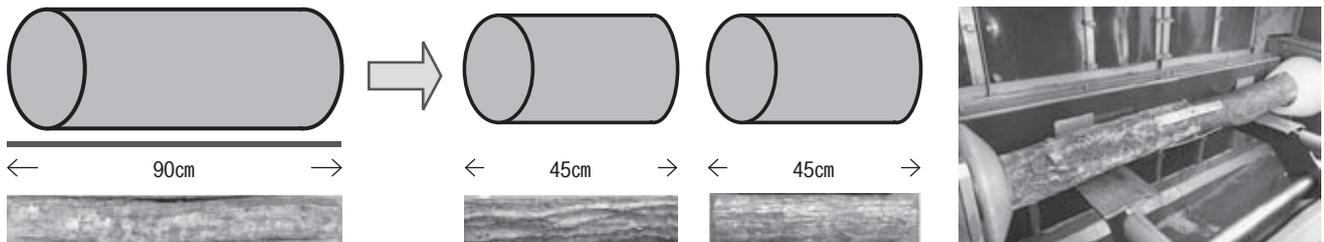
### 2 試験方法

#### (1) 試料材（原木）の調製と処理

福島県の中通り地域から、斜面の一樣な地域を1箇所選定し、平成25年12月下旬にあらかじめ伐採したコナラ原木を90cm（概ね径10～15cm）に玉切りして75本の試験材を調製し、予備試験を行いました。

試験材はウェットブラスト処理に50本、高圧洗浄水による既存高圧洗浄機処理に25本としました。試験材を分割した後、片側45cmを別のダミー材に代替して処理前の試料とし、残り片側をウェットブラスト処理、及び既存の高圧洗浄機で処理しました（図-2）。ウェットブラスト処理の処理時間は60秒、既存高圧洗浄機は120秒としました。処理前後の試験材のセシウム濃度は、チェーンソーで採取したオガをNaIシンチレーションスペクトロメーターで<sup>137</sup>Csと<sup>134</sup>Cs濃度を定量（Bq/kg・12%乾重）しました。

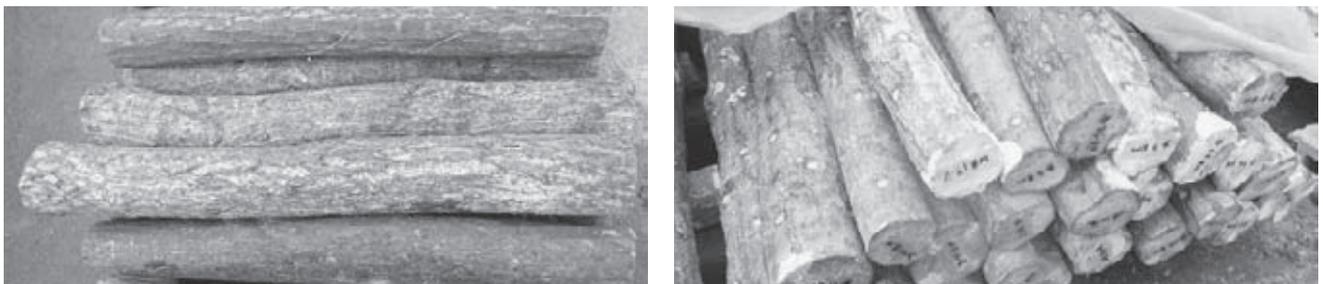
図-2 試験材



#### (2) 試料栽培ときのこの発生

ウェットブラストによる処理効果を実証するため、原木（中通り地方産）をウェットブラスト処理した450本、既存高圧洗浄機で処理した225本及び、無処理の225本にシイタケを植菌し、ビニールハウス内で伏せ込み、栽培を行い、1年目（平成26年秋季）に発生したシイタケ子実体の収量とセシウム濃度を比較しました（図-3）。

図-3 ウェットブラスト処理原木と原木と植菌後の状態



### 3 結果

各装置による処理前後のセシウム濃度は、ウェットブラストによる処理前後で、平均124Bq/kgから44Bq/kgで64%の減少であり、既存原木洗浄機では平均129Bq/kgから67Bq/kgで48%の減少となり、既存原木洗浄機よりもウェットブラスト処理による減少効果が大きいことが実証されました（図-4）。

また、発生したシイタケ子実体の発生量については、ほだ木1本当たりの発生個数はウェットブラスト処理で15個、既存原木洗浄機で15個、無処理で25個であり、ウェットブラスト処理のほだ木において全体の約1割で子実体発生が見られませんでした（表-1）。

各処理のほだ木から発生したシイタケの発生状況を（写真-1）に示します。シイタケのセシウム濃度についてはウェットブラストで処理した子実体が100ベクレル未満であった割合が高かったことから、最も効果が高いといえ、ウェットブラスト処理のセシウム軽減効果が期待されました（図-5）。

図-4 各処理による原木のセシウム濃度減少

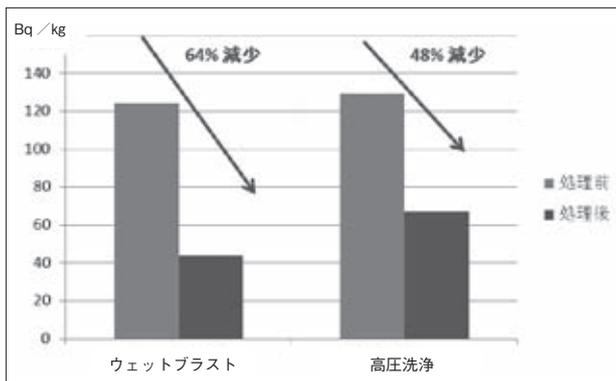


図-5 セシウム濃度100ベクレルを基準としたシイタケの発生割合

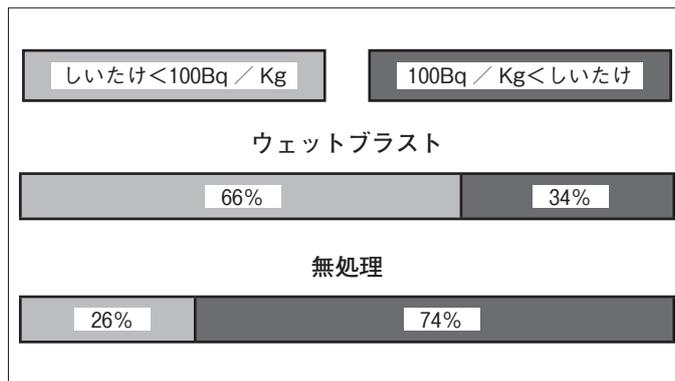


表-1

	ウェットブラスト (n = 450本)	高圧洗浄機 (n = 225本)	無処理 (n = 225本)
発生したほだ木割合 (%)	91%	99%	100%
1 ほだ木あたり平均発生数	15個	15個	25個

※1 ほだ木あたり植菌数は平均30個

(写真-1) シイタケの発生状況



無処理ほだ木



ウェットブラスト処理

### 4 おわりに

今後、同一ほだ木の栽培による2回目以降の発生状況を検証するとともに、今回の試験で課題となった発生量の改善のため、管理方法等について検討していきます。さらに、ウェットブラスト処理原木に対応した簡易かつ適正な栽培方法を検討していく予定です。

# 林道植の畑線と塩の道

## 福島県森林整備課

林道植の畑線は、南相馬市鹿島区上栃窪字木淵と飯館村大字八木沢字冬住を結ぶ幅員五メートル、延長一・二、五八五メートルの舗装林道で昭和五十六年度から平成六年度に開設され、利用区域七四二ヘクタール、総事業費は約十八億円となっています。

この林道は、江戸時代の始めから明治まで、相馬地方で生産された塩や海路他地方からの海産物を運んだ道である「塩の道」に沿って開設されており、林道から塩の道が残るところには案内標識が建てられています。

塩の道は、奥州街道や陸前浜街道のように公認された街道と違い、塩などの交易品を運ぶ必要から生まれたわき道で、馬一頭が通るくらいがやっとという貧弱な所が多かった道であり、取引された品目は相馬の塩のほか、松前（北海道）からニシン、サケ、コンブなどの海産物や塩の高

級品である四国地方の齊田塩（さいだじお）が内陸に運ばれていました。

林道植の畑線が通っている南相馬市栃窪から八木沢に至る峠越えの道は、相馬藩により寛文三年（一六六三年）に開かれました。相馬の塩は、塩分が不足する阿武隈山中の集落や内陸の三春、二本松、福島藩にとっては日常生活に欠くことのできない命の塩でした。この塩は、栃窪と上栃窪にあった検断所（中継所）で一時的倉庫に保管され検査の後、馬の背に積んで運ばれました。

相馬地方で塩がつくられたのは、相馬藩時代の元和六年（一六二〇年）から下総・行徳（千葉県市川市）の神官が入り浜式塩田法を伝えたのが始まりといわれています。相馬藩はその後、藩士を塩の本場赤穂（兵庫県）に留学させ、技術を学ばせるなど、明治まで熱心に保護育成しました。天気の良い日には一、〇〇〇

俵の塩が取れたそうですが、相馬の塩は赤茶色をしており品質は良かったとは言えないそうです。

林道の途中には林道開通記念碑や往来する人々に元気を与えたであろう助けの名水があります。また、上栃窪から八木沢までの道のりの中間地点には明治のころまで助（たすけ）の観音堂と宿泊や休憩のできた峠の茶屋がありました。明治以降、人の往来も途絶え荒廃していましたが、林道の開設を機に助の観音堂は再建され、人や馬の背にしか頼れなかった昔、馬が塩俵を積みあえぎながら登った塩の道、先人の生活の跡をしのぶことができます。（※現在、植の畑林道付近は原発事故の影響により、避難指示解除準備区域に指定されており、除染作業が行われている区間もありますので通行の際はご注意ください。）

参考文献 「塩の道を行く」朝日新聞福島支局編 歴史春秋社 昭和六〇年発行



助（たすけ）の観音堂



「塩の道」



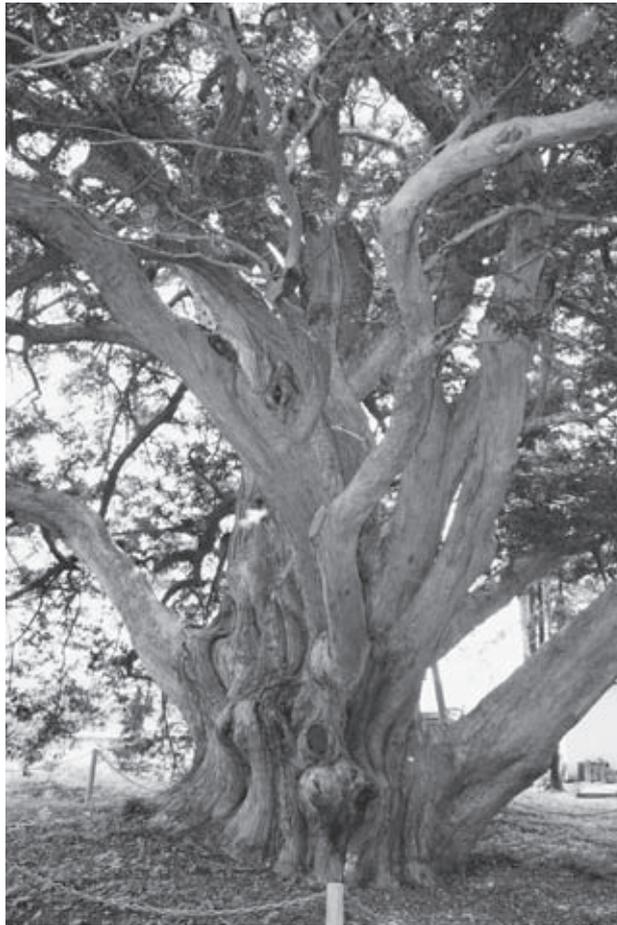
助けの名水

「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 | 8 |

# 万正寺の大カヤ

樹木医 鈴木俊行



「万正寺の大カヤ」は、伊達郡桑折町大字万正寺字大樞地内に生育している。

生育地は、桑折町役場から直線距離で約六〇〇メートル西側で、東北本線・東北新幹線の線路沿いを通り、東北自動車道に接した老人福祉センター・桑折大かや園の近くにある。

本樹にまつわる伝承としては、常陸国の伊佐の住人であった伊達家の始祖朝宗が、一一八九年（文治五年）源頼朝の奥州征伐に従軍し、その戦功により信夫と伊達の地を拝領し、高館城を築き居城した際、記念に植樹したのがこのカヤだと伝えられる。また、本樹の名称については、

古く当地方には万勝寺という寺があり、万勝寺村と称されていたことが由来とされる。

この地は伊達家に縁のある場所で、一八七七年（明治十年）の発掘調査の際に、鎌倉時代のもものと見られる陶器や甕などが発掘されている。しかし、どのような屋敷があったのかは不明らしい。また、本樹の所在地の字名が大樞になっていることから、この木の古さがわかる。

樹種はイチイ科カヤ属のカヤである。カヤは雌雄異種であるが、本樹は雌株で秋には多くの実を着ける。樹齢は八〇〇年とも九〇〇年ともいわれ、昭和二八年十月一日に福島県天然記念物に指定されている。

形状寸法は、樹高は一三・八〇メートル、主幹は、地上約一・〇メートルから一・五〇メートルで大小七本の幹が分岐し、横に大きく羽根を広げるように伸長していることから、幹周の正確な数値の計測は難しいが、幹周は八・七〇メートル、根元周は九・八〇メートルの巨樹である。

枝張りには、東一三・五〇メートル、西一四・九〇メートル、南一六・二〇メートル、北一三・九〇メートルと大きく、一本の木ですら森のようである。



樹冠内に細枝の枯損などが見られるもの、樹勢は良好である。樹形は、樹高はあまり高くないが、枝を大きく広げ、まるで大きな傘を広げたような形状で、枝先は地面に着くぐらいまで垂れ下がっている。枝下に入ると薄暗く、巨木の大きなふところに抱かれているような、なんともいえない安心感がある。また、主幹には、黒い治療跡が数ヶ所あるほか、ところどころにコブをつけ、見る角度や場所によっては樹木の精霊のようだったり、人間の顔にも見えてくるから不思議である。まるで神の化身のような巨樹である。

本樹は、樹体の巨大さ、樹形の美しさと品格、そして歴史、さらに保護状態とすべてにおいて迫力と威厳があり、日本を代表するカヤである。

## いわき地方における間伐の 推進について

■いわき農林事務所  
林業普及指導員 菅野陽美

いわき地方における針葉樹人工林（民有林）面積約33千haのうち、除・間伐が必要な森林は約29千ha（3～12齢級）と、全体の9割近くを占めていることから、間伐の推進は、本地方における重要な課題の一つです。

本事務所では、間伐の推進に取り組んでいるところですが、その一部についてご紹介します。

森林環境基金森林整備事業は、森林所有者の要望箇所にかかる事業対象区域の確認や森林所有者への整備内容の説明等、事業主体と林業普及指導員が連携して進めてきた結果、要望の取りまとめから間伐まで事業主体が主体的に取り組むようになりました。しかし、震災以降労働力不足傾向が続いており、事業を進めていく上で、スケジュール管理が重要となってきました。このため、月1回程度、事業主体と林業普及指導員で実施状況について打合せを行い、森林管理協定締結のための森林所有者の確認や必要となる許認可手続きの支援を行うなど、円滑な事業実施に努めています。

また、市が実施している森林環境交付金事業において、森林環境学習の実施だけでなく、荒廃が懸念される森林の整備に取り組めないか林業普及指導員から提案を行ってきました。その結果、市では手入りが遅れていた市有林等を取りまとめて、平成26年度には約10haの間伐を実施し、平成27年度は植栽や下刈りに取り組んでいます（写真1）。今後も、間伐に限らず、荒廃が懸念される森林の解消を図っていくために森林整備を行うよう引き続き提案していきたいと考えています。

このほか、森林所有者から間伐の選木方法について指導要請があり、森林所有者とともに選木作業を行いました。この所有者は当初伐捨間伐を計画していましたが、伐採木の径級が揃っていること、隣接林分まで作業道があり、延長すれば搬出が可能であることから、搬出間伐の提案を行ったところ、実施したいとの回答があり、間伐材の有効利用につなげることができました（写真2）。

森林所有者の高齢化等により林業生産活動は停滞傾向にありますが、間伐等の森林整備は待ったなしに進めていかなければなりません。引き続き、市や森林所有者等へ各種事業の活用を働きかけるとともに、できるだけ森林所有者へ還元が図られるよう、施業方法の指導に加えて採材や木材市況等の情報提供を行いながら、間伐の推進に取り組んでいきたいと考えています。



（写真1）森林環境交付金事業で整備した森林



（写真2）間伐対象林分での選木作業の様子

団体のページ



## 「民有林における分収 造林事業推進に関する 覚書」を締結

去る八月三十一日、福島県自治会館の一階会議室において、国立研究開発法人森林総合研究所森林整備センター 福島水源林整備事務所 田坂隆治所長、福島県農林水産部 小野和彦部長（水戸典明次長代理出席）と公益社団法人ふくしま緑の森づくり公社 畠利行理事長（松本秀樹専務理事代理出席）の三者間で「民有林における分収造林事業推進に関する覚書」の締結式が行われました。

覚書締結の目的は、県内の多様な森林整備を進めつつ森林の有する公益的機能を確保していくため、分収林事業を推進する三者で包括的な協定を締結し、公的機関等による森林整備を連携して推進するだけでなく、市町村や分収造林契約者、森林組合等林業事業者とも連携・協力し森林の整備や木材販売の取組みなど、分収造林事業の円滑な推進を図

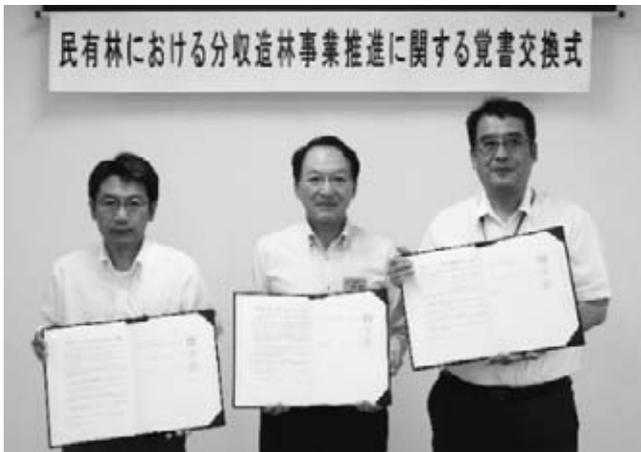
るといふものです。

具体的には、三者間で定期的に連絡会議を開催し、事業の推進方策等の検討を進めて参ります。また、間伐材等の利用促進を図るため一体的な路網の整備を推進して、市場動向等を勘案した採材方法等の研修や労働災害防止等労働安全衛生を推進するための研修会を共同で開催し、林業従事者の労働安全衛生や技術取得の向上を支援していきます。

十月十四日（水）会津美里町旭寺入水無地区の公社造林地にて、事業請負業者、現場責任者及び作業員等を対象に、森林総合研究所森林整備センター、福島県会津農林事務所とふくしま緑の森づくり公社で現地検討会を実施しました。

スイングヤーダ、プロセッサ、フォワーダといった車両系高性能林業機械の導入により、木材生産現場における作業能率の向上と共に間伐材の生産性の向上を図るため、木材生産現場における搬出間伐の作業システムの構築と市場動向を踏まえた造材方法などについて意見交換を行いました。

また、請負事業者が木材市場に運搬した木材の切り口などを確認しながら、商品としての素材の品質管理についての理解を深めました。



左から、田坂所長、水戸次長、松本専務理事



「覚書」の締結式



現地検討会の様子

# 技を究め、技術を伝承する 新たに『森の名手・名人』に認定される

(公社) 福島県森林・林業・緑化協会

公益社団法人国土緑化推進機構では、森や山に関わる生業や、日本の風土・地域生活に染み込んだ営為のうち優れた技をもってその技を究め、他の技術・技能者、生活者たちの模範となっている達人たちのことを「森の名手・名人」として認定しています。

今年度、福島県森林・林業・緑化協会より推薦した二名の方が、「森の名手・名人」に認定されました。今後、各地域で開催されるイベント等で、「森の名手・名人」による林業に関する技術の伝承や一般の方々に対する森林との関わりのPR等を図ってまいりたいと考えております。

## 【認定者】森の伝承・文化部門

鋸鍛冶

五十嵐征一(七十一歳) 会津若松市

五十嵐氏は、安土桃山時代から、会津鋸鍛冶の歴史を創り上げてきた中家一門につながる第三代目・中屋伝左衛門として、昔ながらの玉鋼を

使った鋸製造や全国から送られてくる鋸の目立て仕事をしています。

会津鋸は、安土桃山時代に始まった城や街づくりのための大工道具としての活用に加えて、江戸時代には会津藩による立木伐採用の手曲がり鋸である天王寺鋸の技術開発により、その名声が江戸や越後にまで広がったと言われ、その後、明治時代の北海道開拓や戦後復興期の木材需要を支える道具として全盛期を迎え、日本の林業振興に大きな役割を担ってきました。

会津鋸の全盛期には、三〇軒以上の鋸鍛冶屋があったと言われていましたが、昭和三〇年代以降は、チェーンソーや電動丸鋸が普及し、昔ながらの鋸鍛冶屋は次々と廃業していくことになり、現在では、五十嵐氏が最後の伝承者となりました。

五十嵐氏の製造した鋸は、一九九六年に栃木県で開催された全国育樹祭において、皇太子殿下、妃殿下の枝落とし作業用の剪定鋸として使用

されるなど高い評価を得ています。

五十嵐氏は、今では市販されていない「マド鋸」「ガガリ鋸」「二人挽き鋸」などの古い鋸も「きちんと手入れをすれば切れ味が戻り、末永く使える」という、ものづくり職人としての信念を持って会津鋸鍛冶の技術と伝統を後世に伝える活動を続けており、こうした活動がふくしまの森林文化の振興に寄与することが期待されています。



鋸の目立て作業の様子

## 【認定者】森の伝承・文化部門

ヒロロ細工職人

久保田節子(八四歳) 三島町

久保田氏は、ヒロロ細工職人として七〇年以上の実績があることに加え、制作工程の基礎を築き東北女性初の伝統工芸士となったことから、卓越した技術を有する職人であると認められています。

三島町では、冬の農閑期の仕事は物作りで、野山の植物やその繊維・樹皮等を利用して籠や袋など生活に使う様々な道具を作る技術が受け継がれてきました。久保田氏も幼少の頃から両親が物作りをする様子を見

て育ち、それを真似ていたことがきっかけで、物作りを始めました。ヒロロとは、奥会津ではミヤマカンスゲとオクノカンスゲというカヤツリグサ科多年草の総称であり、採取の時期により材料の強度や使いやすさが変わるため、見極めが重要で、九月頃に採取し、採取後は天日乾燥し、これを撚って細縄状にし、袋物などを編みます。

ヒロロ細工は目が細かいため、器用さと根気が求められます。また、編む前の素材の採集や、ヒロロ縄の作成など、加工にも多くの工程と手間を要しますが、軽く柔らかな製品になることが特徴です。

久保田氏は、生活工芸活動の中心的存在であり、ヒロロ細工の第一人者であり、多くの工人が久保田氏より教えを受けています。

平成二年より三島町生活工芸館の指導員を務め、当時の研究員とともに様々なデザインのバッグを考案、制作工程の基礎を築くなど、技術の伝承や後継者の育成に深く貢献されています。



ヒロロ細工作業の様子

# 木材市況

## 素材の価格〈工場着価格〉（8月15日現在）

（単位：㎡当り千円）

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8-10)	0	(0~0)	0	8 (8~9)	0	9 (8-10)	0
		10~13		並	スギ	10 (10-11)	△1	9 (9~9)	0	9 (9-10)	0	10 (9-11)	0
	中	14~18	3.00	並	スギ	10 (8-12)	0	12 (12-12)	0	9 (9~9)	0	10 (8-12)	0
				並	ヒノキ	12 (11-13)	0	(0~0)	0	14 (13-16)	0	13 (11-16)	0
		6.00	並	スギ	15 (13-19)	0	8 (8~8)	0	14 (14-15)	0	14 (8-19)	0	
			並	ヒノキ	25 (24-25)	0	(0~0)	0	22 (19-24)	0	23 (19-25)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	9 (8-11)	△1	11 (11-12)	0	9 (8~9)	0	10 (8-12)	0	
		4.00	並	アカマツ	8 (8~9)	0	(0~0)	0	7 (6~8)	0	8 (6~9)	0	
		1.80	並	アカマツ	5 (5~5)	0	(0~0)	0	5 (4~7)	0	5 (4~7)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)	0	(0~0)	0	31 (27-35)	0	31 (27-35)	0
並				米マツ	35 (35-35)	0	29 (29-29)	0	32 (29-35)	0	32 (29-35)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	28 (27-28)	0	28 (27-28)	0	
			並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	34 (28-39)	0	34 (28-39)	0	
70~90		8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
パルプ用材	-	-	並	マツ	(5~5)	0	(0~0)	0	5 (5~5)	0	5 (5~5)	0	
			並	広葉樹	(7~7)	0	(0~0)	0	7 (7~7)	0	7 (7~7)	0	

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)		7 (6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	(0~0)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	12 (11-13)	0	10 (9-11)	0

- 注) 1. 前月差の△印は値下りを、\*印は前月実績がなかったことを示す。  
 2. ( ) 内は各地域の価格幅、( ) 外は各地域の平均的価格を示す。  
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。  
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

七月の原木市場への入荷状況は、前月比二割減（前年比六割増）の一八、九八二立方メートルとなっている。  
 販売量については、前月比一八割減（前年比八割増）の一九、七七九立方メートルとなっている。  
 八月の価格については引き続き弱保合の状態が続いている。

昨年、緑化センター駐車場にある売店が「逢瀬茶屋」としてリニューアルオープンし、茶屋のメニューとして「キャベツ餅」を売り出しました。いまや、キャベツ餅は緑化センターを含む、逢瀬地区のキーワード、目玉として大いに売り出し中です。  
 ちなみに、レシピは、キャベツを炒めた中につきたての餅を入れ、一緒に絡めてできあがり。とても簡単。だからこそ、各家庭ごとの味があがり、地元で愛されてきました。その



### キャベツ餅を食べに行こう。

県中農林事務所 山田 憲 司

福島県総合緑化センター・逢瀬公園（以下、「緑化センター」）は、皆さん、仕事や研修で一度は行ったことがあるのではないのでしょうか？  
 その、緑化センターでしか食べることができない「キャベツ餅」というB級グルメがあります。全国の県民の秘密を明かしていく某テレビ番組でも取り上げられたことがあるのですが、郡山市民でも、東北道の西側の住人にしかなじみが無く、いままでは緑化センターのご近所の方とお知り合いになつて「キャベツ餅食べさせてください。」とお願ひする以外、食べる方法がありませんでした。

ほかに、キャベツ餅スティックという、キャベツ餅を春巻の皮に巻いて揚げたスナックも人気です。  
 さて、お餅を食べたら腹ごなしに緑化センター内を散策しましょう。季節ごとにいろいろなイベントも開催されており、家族で遊びに行く場所としてもお薦めです。  
 逢瀬という地名から、出逢いの郷としても売り出していますので、独り身の方も出逢いを求めて出かけてみてはいかがでしょうか。



はなしの  
ひろば

柿の木

家の前に柿の木が一本ある。もの心ついた時にはもうそこに植えてあったので樹齢は五〇年以上かも知れない。十月半ばになると濃い緑の間から薄い柿色が見え隠れし、柿のありかを示している。そういえばフルーツライン（福島市）の沿道でもリンゴの赤、ナシの薄茶色が葉の緑をかき分けて、点々とその色を見せ（この木はリンゴよ、この木はナシよ）と囁いているようだ。もちろん柿の木も然り（私は、柿の木よ）と。忘れていたわけではないが、葉の緑の濃淡の変化よりも、深まりいく秋とともに柿色が毎日色を濃くしていくのを見届けている方が楽しい。

柿の種類は「みしらず」。その名前の由来は、多くの実を付けることから「身のほどを知らず」と言われ「みしらず」と呼ばれるようになったそうだ。確かに昨年は小ぶりだが八〇〇個も獲れた。八〇〇個も抱えていた枝はさぞかし重かったことだろう。

今年も十一月初旬には渋抜きをする。渋が抜けた柿は実に美味い。四季の光や雨、風に育てられた風味豊かな味わいだ。

そして柿を食べ終える頃には、すべての葉を落とした柿の木がいる。その姿は、自らの仕事を終え、堂々と天に向かって立っている。落ちた葉はまた大地に還り、今度は柿の木を支える役目を果たす。

晩秋の夜、落葉した枝の間をぬって差し込んでくる月の光は静謐で落ち着きを見せている。晩秋の夜の空気は透明で混じり気がない。深く息を吸い込むと、体の芯に寒が流れ込む。そしてこの夜寒が寒き夜となり、そろそろ本格的な冬が訪れる。

（都）

表紙の写真



「森林と馬の共存」

第12回ふくしま森林・林業写真コンクールで優秀賞を受賞した坂野井 浩さん（福島市）の作品。

編集

福島県内四森林管理署

福島県森林・緑化協会

福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合

ふくしま緑の森づくり公社

森林総合研究所福島水源林整備事務所

福島県森林・林業・緑化協会

（福島市中町五番一八号県林業会館内）

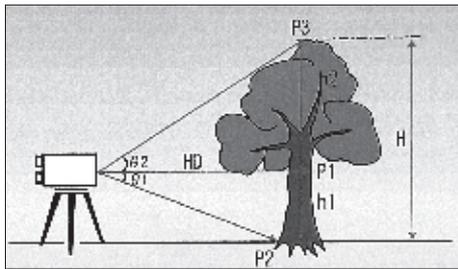
発行人

相馬 陽光社印刷株式会社

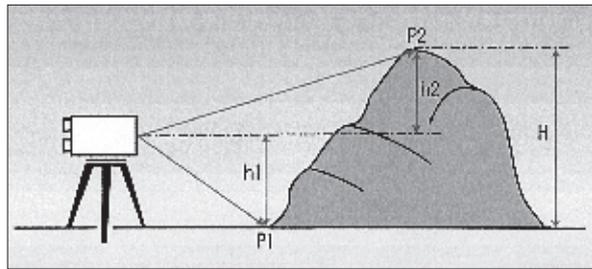
（定価 一〇八円）

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

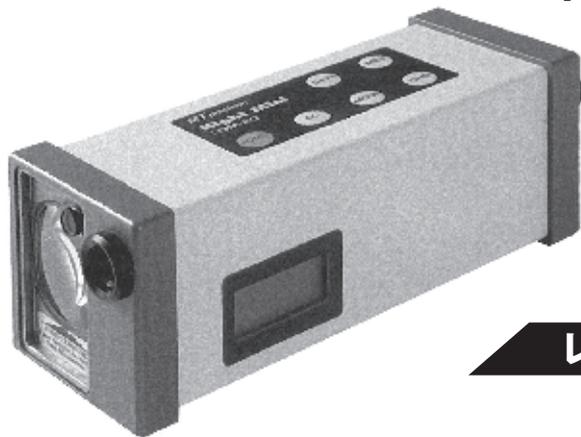


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5 mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定寸法	高さ・水平距離・斜距離
重量	W64・H64・D180
付属品	650 g
	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

# 備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



## 1 火災

山火事で受けた損害



## 2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



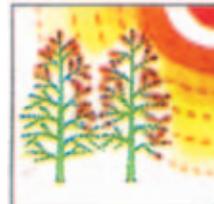
## 3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



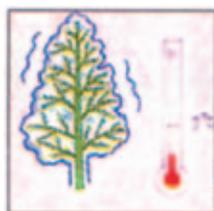
## 4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



## 5 干害

乾燥による枯死などの損害



## 6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



## 7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



## 8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会  
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジのプロセッサ

# GP-45V グラップルプロセッサ

**IWAFUJI**  
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトング
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトングによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トング
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor  
MODEL : GP- 45V

**イワフジ工業株式会社**

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒963-8052 福島県郡山市八山田 5-314  
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



# 自然との調和

( 私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。 )  
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

**野生獣類から大切な植栽木を守る**

ヤシマレント

---

**ヤマビル対策に**

マリックスター(駆除剤)

**蜂さされ防止**

ハチノックL(楽退治)  
ハチノックS(携帯用)

---

**タケを駆除する**

クロレートS

**大切な日本の松を守る  
住化グリーン**の林業薬剤

ヤシマスミバイン乳剤  
ヤシマスミバインMC  
グリーンガードNEO  
パークサイドF  
ヤシマNCS  
モリエートマイクロカプセル  
マツグリーン液剤2  
マッケンジー

**くん蒸用生分解性シート**

与作シート(茶・白)  
(折りたたみ式  
専用キャリーバック使用)



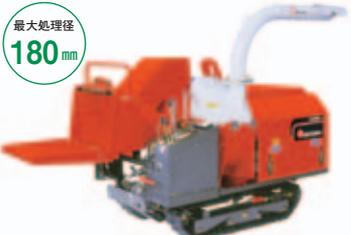
## 住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423  
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

## 効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

# 機器はゼノアから

チッパシュレッダ



**竹もOK!**  
**SR3000-2**  
出力 22.3kW (質量1,330kg)  
水冷ディーゼル  
X379301020  
¥3,375,000(税抜)

プロソー



**GZ3900EZ**  
排気量 39.1cm<sup>3</sup> (質量4.4kg)  
RSP 21BPX 967159403 ¥108,000(税抜)  
95VPX 967159303  
HS 25AP 967159104  
91VXL 967159204  
HM 21BPX 967159404  
95VPX 967159305



**GZ4300EZ**  
排気量 43.1cm<sup>3</sup> (質量4.4kg)  
45cm(18")  
RSP 21BPX 967160502 ¥133,700(税抜)  
95VPX 967159902  
HM 21BPX 967160504  
95VPX 967159904

## ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

# (有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1